目次

青春 2
孤独 2
虫 3
無題 4
さびしさに負けない七つの方法 4
冗談 6
誤解 6
替え歌 7
君は　君は　僕は 7
誰かに手紙を書いた夜 8
道を歩く 9
文化は文化を超えない 9

文化は文化を超えない

弦楽器イルカ

青春

どうしようもない場所で 先が見えそうで見えない場所で

ただ たくさんの人がいて ただ一人の人がいない

僕には見つけられそうもなく あまりにも贅沢な望み

だけど僕は若いので そういう風に考える

孤独

たくさんの他人の中で 一人を感じるとき

僕はそれを孤独と呼び 君はそれを甘えと呼ぶ

ある日もう二度と戻っては来ない人を思うとき

君はそれを孤独と呼び 僕はそれを感傷と呼ぶ

嗚呼とかくこの世はままならないけれど

でも僕は今孤独じゃない

僕がいるからだ

虫

風呂からあがって 部屋のドア開けたら

暗闇に虫が一匹ポツンと浮いてた

廊下の明かり目がけてこっち向かって来たので

僕は腰をかがめて 虫に道を譲った

虫はウソの光の下で 僕から離れて行ったので

安心してドア閉めたら 何か忘れ物でもしたのか？

虫が ふと こっち戻って来て あれよ ドアに挟まってしまった

僕は驚いて だけど怖くなって 少し嫌になって

閉まったドア眺めて 何もせずに 開けもせずに

ただじっとそのまま 眺めていた

虫は挟まってきっと挟まって 今も挟まって

足は折れ曲がり 腹は潰れて

なんか黄色いの 出しているだろう

無題

気をつけなくちゃあ 僕がいなくなる

本当にあっという間だよ 僕がいなくなるのは

君だってそうだよ ほら その隙間から

君が落ちて行っちゃうよ 君はね

まだ落ちてないつもりかい？

気をつけなくちゃあ僕がいなくなる

いろんなものがね 僕を誘うんだ

本当にあっという間 僕はまるで

はじめからなかったみたいに

消えてなくなっちまった

ねえ気をつけなくちゃあ あっという間だよ

僕がいなくなる 君がいなくなる

さびしさに負けない七つの方法

大丈夫 君がいくらさびしくても

僕はさびしくないから

だから 大丈夫

大丈夫君がさびしさにのたくってるうちに

僕は先に行くから

だから 大丈夫

大丈夫君が苦し紛れに手を伸ばしたら

僕は払いのけるから

だから 大丈夫

大丈夫君のために僕が出来ることなんて

きっと何もないはずだから

だから 大丈夫

大丈夫 君が何かでさびしさを誤魔化してる隙に

僕が脇からそれを奪い去るから

だから 大丈夫

大丈夫 たとえ世界平和が訪れようとも

君のさびしさだけは消えないはずだから

だから 大丈夫

大丈夫 忘れた頃に

そのさびしさはまたぶり返すから

だから 大丈夫

冗談

思い出したくないこと？

たくさんあるよ。

たくさんありすぎてね。

思い出せない。

誤解

誰か、俺の誤解を解いてくれないか？

俺は誤解してるんだ。

間違ってるんだ。

違うんだ、こんなはずじゃないんだ。

知ってるんだ。

替え歌

酒を飲んだ夜中も 手紙を書いた朝も

苦し紛れに眠る昼も嫌な夢で起きる夕べも

同じこと繰り返し同じように忘れ去り

道しるべ残さないように足跡いつも振り返って

誰にも知られずに歳を取り誰かにバレたなら狂い出す

さあ目を上げろ お前のために世界を照らすだろう

太陽が燃えているギラギラと燃えている

たった一つの太陽が そこも ここも照らすのだろう

太陽が燃えている ギラギラと燃えている

だが お前は知っているだろう

答えは風の中 ところが風の中

太陽は燃えてる

君は　君は　僕は

「悲しい」と言う前に「楽しい」と言ってしまうような

「ありがとう」と言う前に「ごめんね」と言ってしまうような

「助けて」と言う前に「大丈夫」と言ってしまうような

「さよなら」と言う前に「またね」と言ってしまうような

そんなちぐはぐな

でも取り返しのつかないちぐはぐさを抱えて

君は 君は 僕は

いったいどこまで 行きますか？

誰かに手紙を書いた夜

誰かに手紙を書いた夜 どうにも寝つけられず思い出す僕たちの月日流れて消えた思い

誰もがここから離れてくあまりにも当然に

誰もがそうして齢をとるあまりにも突然に

当たり前のことに 気づいた夜は

早く明けろと 早く眠れと

焦るばかりで.....

目を閉じていつも思うのは僕が今生きてること

目を開けていつも思うのはいつかは消えること

道を歩く

思わず口にしたくなるような 完璧なフレーズを思いつく

君がそばにいないことを悔やみ 独り言で間に合わせて笑う

足を止める後悔 苦い笑い 宙を舞う溜め息に紛れて

言うべき言葉を言い過ぎる僕は 中途半端に人を巻き込む

たとえ僕がこの空を飛べても 君の元へ降りはしないだろう

君がそこにいることを思えば 僕が何をすると言うのだろう

僕にわからない 君にも見えない くだらない明日を待つ君に

「くだらない」と言い過ぎた僕の悔しさが 君に届けばいいのに

文化は文化を超えない

文化は殺人を止めない 文化は核を廃絶しない

文化は戦争を止めない 文化は世界を改革しない

文化は

ただ

文化は人を動かす文化は心を動かす

そして

人が 心が世界を改革する

文化は文化を超えない文化は人の心に留まる

文化は文化を超えない

版番号の予定

{{--
--}}

著　者　　書籍情報の編集ページから、著者情報を入力してください

制　作　　Puboo
発行所　　デザインエッグ株式会社